令和６年１月２７日（土）　東奥日報

青大と三戸高 教育協定

町と3者で活性化策も

青森大学と三戸高校が26日、高等教育連携に関する協定を締結、同大の澁谷泰秀学長と同校の豊川武伸校長が協定書に署名した。同大は今回で県内高校計14校と協定を締結したが、三八地域の高校とは初。同校がある三戸町とも２０１７年から包括連携協定に基づき町民の健康づくりなどで支援を続けており、こうした経緯を踏まえ当面、同校のクリエイティ部の活動支援を軸に、３者の連携により高校存続や町活性化を図っていく方針。（珍田秀樹）

協定締結後、握手する（右から）澁谷学長、豊川校長、松尾町長。３者連携により地域振興、高校魅力化を図っていく

同校で行った締結式には澁谷学長、豊川校長と、立会人の松尾和彦町長ら関係者が出席。同大東京キャンパス、むつキャンパスともオンラインで結び、協定書を交換した。

澁谷学長は同町、同校との連携、サポート推進へ強い意欲を示すとともに「地域の情報発信へ、活発に活動しているクリエイティ部に注目している。本学のリソース（資源）を注入し、ITなどにより距離的な問題も克服しつつ、地域活性化に寄与したい」などと述べた。

豊川校長は、大学との連携によって生徒の進路選択に幅が出るほか、高校在学中から大学の授業や教員と直接つながれる波及効果に期待感を示した。また新年度から、現在は部活動のクリエイティ部の取り組みをカリキュラムに取り入れる予定を明らかにし「青森大学との連携により学校の魅力度を高め、生徒募集にもつなげたい」とした。

同校、同大卒業生の松尾町長は、町と大学が一つ一つ連携を積み重ねてきたとし「高校生がIT、グラフィック、デザインなどに取り組むことで新たな道も開ける。青森大学との連携はそれを大きく前進させる」と期待した。